2021年3月期　第3四半期決算報告

2021年2月4日

株式会社 ニコン

2021年3月期 Q3：ポイント

Q3

実績

- **売上収益：1,506億円**
- **営業利益：　99億円**

前年比

- **売上収益：　28億円減**
- **営業利益：　59億円増**
- **前年比減収増益、特殊費用を除けば全事業セグメントで黒字**
  - **映像事業**　：ミラーレスカメラは四半期ベースで過去最高の売上。製品ミックス改善と事業運営費削減で減収ながら赤字幅縮小。構造改革関連費用等を除けば実質黒字
  - **精機事業**　：FPD露光装置の販売増により増収増益
  - **ヘルスケア事業**　：網膜画像診断機器が四半期ベースで過去最高売上となり黒字転換

Q1-Q3

実績

- **売上収益：3,262億円**
- **営業利益：▲367億円**

前年比

- **売上収益：1,182億円減**
- **営業利益：　582億円減**

注：本資料で使用している数値は、億円未満は切り捨ててあります

2021年3月期 Q3：連結売上収益・損益

単位：億円	20年3月期 Q3実績	21年3月期 Q3実績	前年比
売上収益	1,534	**1,506**	▲28
営業利益	40	**99**	+59
営業利益率	2.6%	**6.6%**	
税引前利益	58	**109**	+51
税引前利益率	3.8%	**7.2%**	
当期利益（親会社の所有者に帰属）	39	**81**	+42
当期利益率	2.5%	**5.4%**	
FCF	8	**225**	+217
為替：USドル	109円	**105円**	売上収益への影響 ▲12
ユーロ	120円	**125円**	営業利益への影響 +2

前年比減収の中、ミラーレスやFPD露光装置の増収や構造改革の効果により、各利益・FCFが改善

2021年3月期 Q3：セグメント別業績

単位：億円

		20年3月期 Q3実績	21年3月期 Q3実績	前年比
映像事業	売上収益	700	**523**	▲25%
	営業利益	▲8	**▲6**	+2億円
精機事業	売上収益	526	**666**	+27%
	営業利益	107	**121**	+14億円
ヘルスケア事業	売上収益	165	**171**	+4%
	営業利益	▲4	**7**	+11億円
産業機器・その他	売上収益	143	**145**	+1%
	営業利益	9	**14**	+5億円
各セグメントに配賦されない全社損益	売上収益	–	–	–
	営業利益	▲63	**▲38**	+25億円
連結	売上収益	1,534	**1,506**	▲2%
	営業利益	40	**99**	+59億円

映像事業は構造改革関連費用等の特殊要因を除けば実質黒字、営業利益は全事業セグメントで前年を上回る

2021年3月期 Q1-Q3：連結売上収益・損益

単位：億円	20年3月期 Q1-Q3実績	21年3月期 Q1-Q3実績	前年比
売上収益	4,444	**3,262**	▲1,182
営業利益	215	**▲367**	▲582
営業利益率	4.8%	**▲11.3%**	
税引前利益	259	**▲279**	▲538
税引前利益率	5.8%	**▲8.6%**	
当期利益（親会社の所有者に帰属）	202	**▲234**	▲436
当期利益率	4.5%	**▲7.2%**	
FCF	47	**104**	+57
為替：USドル	109円	**106円**	売上収益への影響 ▲28
ユーロ	121円	**122円**	営業利益への影響 +6

一時費用等の影響で各利益が赤字の中、FCFは2四半期連続で黒字を確保、累計では前年を上回る

2021年3月期 Q1-Q3：セグメント別業績

単位：億円

		20年3月期 Q1-Q3実績	21年3月期 Q1-Q3実績	前年比
映像事業	売上収益	1,890	**1,167**	▲38%
	営業利益	12 (20)	**▲280** **(▲261)**	▲292億円
精機事業	売上収益	1,702	**1,304**	▲23%
	営業利益	367 (367)	**61** **(61)**	▲306億円
ヘルスケア事業	売上収益	465	**428**	▲8%
	営業利益	▲16 (▲16)	**▲16** **(▲16)**	±0億円
産業機器･その他	売上収益	385	**362**	▲6%
	営業利益	27 (27)	**▲15** **(▲15)**	▲42億円
各セグメントに配賦されない全社損益	売上収益	–	–	–
	営業利益	▲174 (▲157)	**▲116** **(▲116)**	+58億円
連結	売上収益	4,444	**3,262**	▲27%
	営業利益	215 (241)	**▲367** **(▲348)**	▲582億円

各セグメントに配賦されない全社損益は、前年の遊休地売却益38億円と構造改革費用▲17億円を除けば、前年比79億円改善

注：営業利益の（ ）内数値は、構造改革関連費用を除いた値、各セグメントに配賦されない全社損益には、20年3月期に▲18億円、21年3月期に15億円のセグメント間取引消去を含む

2021年3月期 Q3：映像事業

単位：億円	20年3月期 Q3	20年3月期 Q3累計	21年3月期 Q3	21年3月期 Q3累計	前年比 Q3	前年比 Q3累計
売上収益	700	1,890	523	1,167	▲177	▲723
営業利益	▲8	12	▲6	▲280	+2	▲292
営業利益率	▲1.1%	0.6%	▲1.1%	▲24.0%		
レンズ交換式デジタルカメラ	58万台	138万台	28万台	66万台	▲30万台	▲72万台
交換レンズ	95万本	226万本	47万本	108万本	▲48万本	▲118万本
コンパクトデジタルカメラ	23万台	73万台	8万台	20万台	▲15万台	▲53万台

Q3前年比：ミラーレスカメラとレンズ新製品の販売は好調に推移、プロ・趣味層向けモデルへのシフトが順調に進み、販売単価が上昇
新製品Z 6II、Z 7IIも寄与し、ミラーレスはボディ・レンズともに四半期ベースで過去最高の販売台数と売上を達成
事業運営費の前倒し削減も進み、構造改革費用等の一時費用を除けば実質黒字

注：Q3累計の営業利益▲280億円には、Q2・Q3の固定資産減損、棚卸資産廃棄・評価損合わせて約▲160億円と構造改革関連費用▲19億円を含む

2021年3月期 Q3：精機事業

単位：億円	20年3月期 Q3	20年3月期 Q3累計	21年3月期 Q3	21年3月期 Q3累計	前年比 Q3	前年比 Q3累計
売上収益	526	1,702	666	1,304	+140	▲398
営業利益 営業利益率	107 20.3%	367 21.6%	121 18.2%	61 4.7%	+14	▲306
FPD露光装置	6台	24台	12台	17台	+6台	▲7台
半導体露光装置 新品／中古	5/5台	19/9台	5/2台	11/5台	±0/▲3台	▲8/▲4台

Q3前年比：FPD装置事業は、装置の据付が前倒しで進み、販売台数は前年を上回り、増収増益
半導体装置事業は、新品装置の販売は堅調に推移したものの、棚卸資産の廃棄・評価損の計上もあり減益
事業全体としては、FPD装置事業の増収影響大きく増収増益

注：Q3累計の営業利益61億円には、Q2・Q3の棚卸資産廃棄・評価損約▲140億円を含む

2021年3月期 Q3：ヘルスケア事業

単位：億円	20年3月期		21年3月期		前年比	
	Q3	Q3累計	Q3	Q3累計	Q3	Q3累計
売上収益	165	465	171	428	+6	▲37
営業利益	▲4	▲16	7	▲16	+11	±0
営業利益率	▲2.4%	▲3.4%	4.1%	▲3.7%		

Q3前年比：網膜画像診断機器は四半期ベースで過去最高の売上を達成。生物顕微鏡の販売も堅調に推移し、事業全体で増収。営業利益は経費抑制の効果もあり、前年赤字から黒字転換

2021年3月期 Q3：産業機器・その他

単位：億円	20年3月期		21年3月期		前年比	
	Q3	Q3累計	Q3	Q3累計	Q3	Q3累計
売上収益	143	385	145	362	+2	▲23
営業利益	9	27	14	▲15	+5	▲42
営業利益率	6.3%	7.0%	9.7%	▲4.1%		

Q3前年比：デジタルソリューションズ事業においてコンポーネントビジネス等が堅調に推移する中、経費抑制効果も加わり、セグメント全体で増収増益

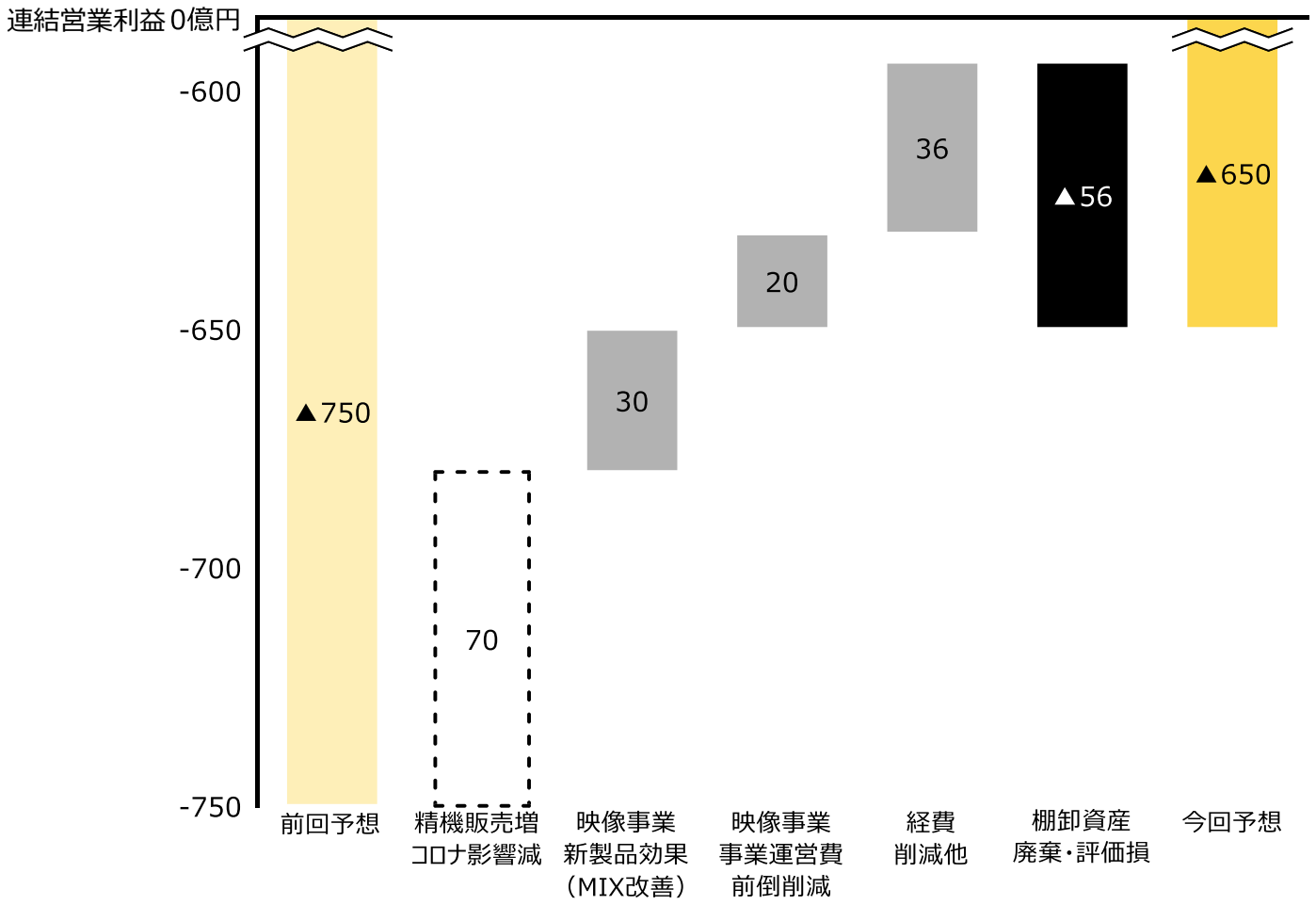
1．2021年3月期 第3四半期決算報告

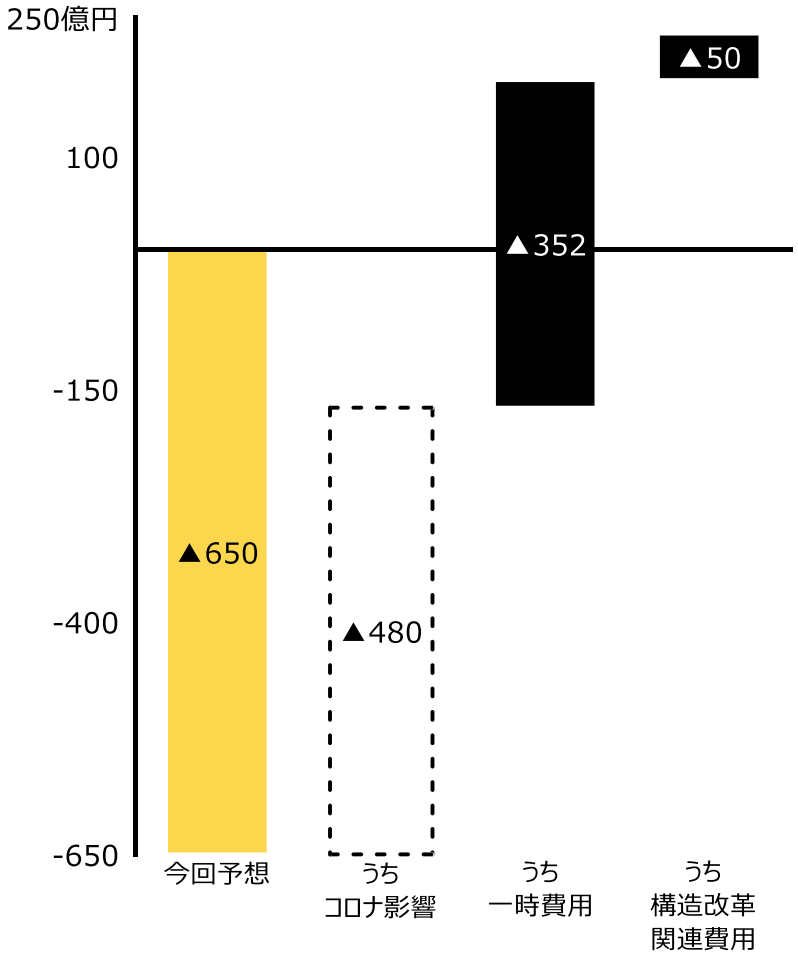
2．2021年3月期 通期見通し

2021年3月期 通期見通し：ポイント

売上収益	• **全社見通し　4,500億円**（前回予想から200億円上方修正） - 映像事業：Q3の上振れを反映し、50億円上方修正 - 精機事業：FPD露光装置の販売台数上振れを反映し、150億円上方修正
営業利益	• **全社見通し　▲650億円**（前回予想から100億円上方修正） - 映像事業：増収影響と事業運営費の削減前倒しにより、50億円上方修正 - 精機事業：FPD露光装置の増収影響が棚卸資産の廃棄・評価損を上回り、30億円上方修正 - 各セグメントに配賦されない全社損益：本社費用削減等により20億円上方修正
当期利益	• **全社見通し　▲420億円**（前回予想から80億円上方修正）
株主還元	• **年間配当金20円、中間配当金10円**（前回予想と同じ）

2021年3月期 通期見通し：営業利益の変化と特殊要因の内訳





来期の全事業セグメント黒字化目標に向けて、業績改善基調が持続、経営課題への積極対処も継続

注:一時費用▲352億円はQ2固定資産減損損失▲188億円、Q2棚卸廃棄・評価損▲107億円、Q3棚卸廃棄・評価損▲56億円の合計を指す

2021年3月期 通期見通し：連結売上収益・損益

単位：億円	20年3月期 実績	前回予想（11/5）	今回予想（2/4）	前年比	前回予想比
売上収益	5,910	4,300	**4,500**	▲1,410	+200
営業利益	67	▲750	**▲650**	▲717	+100
営業利益率	1.1%	▲17.4%	**▲14.4%**		
税引前利益	118	▲700	**▲600**	▲718	+100
税引前利益率	2.0%	▲16.3%	**▲13.3%**		
当期利益（親会社の所有者に帰属）	76	▲500	**▲420**	▲496	+80
当期利益率	1.3%	▲11.6%	**▲9.3%**		
EPS	19.93円	▲136.19円	**▲114.40円**	▲134.33円	+21.79円
年間配当	40円	20円	**20円**	▲20円	±0
為替：USドル	109円	106円	**106円**	売上収益への予想影響 ▲55	+23
ユーロ	121円	118円	**121円**	営業利益への予想影響 ▲1	+7

注： EPS（基本的１株当たり当期利益）＝当期利益÷期中平均株式数（20年3月期実績は約3.86億株、21年３月期予想は約3.67億株で計算）

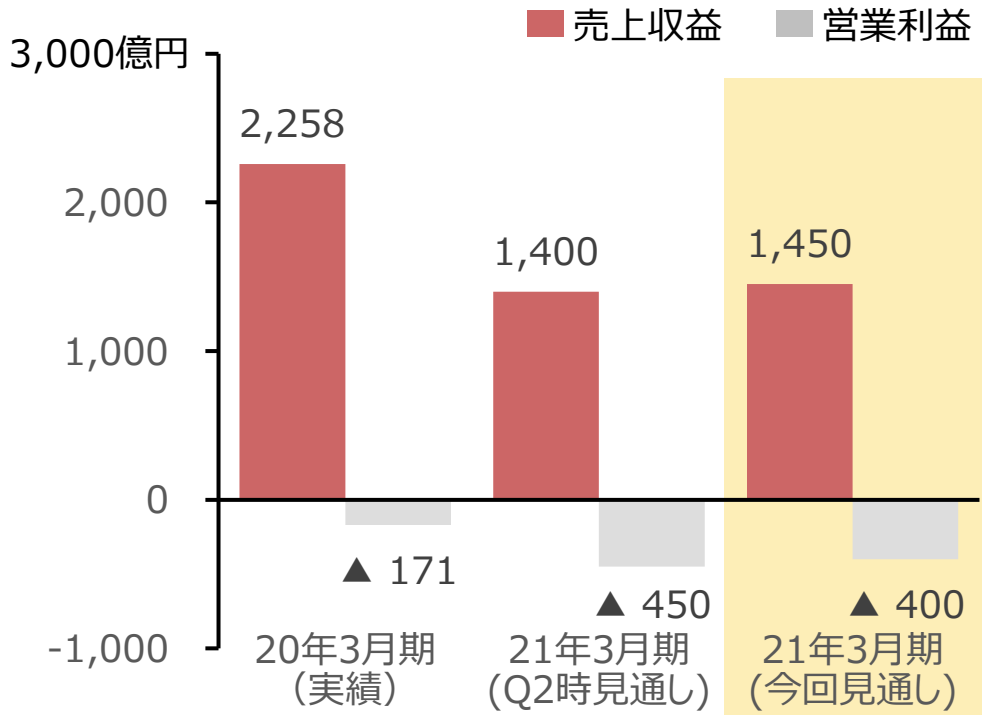
2021年3月期 通期見通し：セグメント別業績

単位：億円

		20年3月期 実績	前回予想（11/5）	今回予想（2/4）	前年比	前回予想比
映像事業	売上収益	2,258	1,400	**1,450**	▲35.8%	+3.6%
	営業利益	▲171 (▲144)	▲450 (▲400)	**▲400** **(▲350)**	▲229億円	+50億円
精機事業	売上収益	2,450	1,750	**1,900**	▲22.4%	+8.6%
	営業利益	480 (480)	10 (10)	**40** **(40)**	▲440億円	+30億円
ヘルスケア事業	売上収益	620	600	**600**	▲3.2%	±0%
	営業利益	▲24 (▲24)	▲40 (▲40)	**▲40** **(▲40)**	▲16億円	±0億円
産業機器・その他	売上収益	580	550	**550**	▲5.2%	±0%
	営業利益	18 (18)	▲20 (▲20)	**▲20** **(▲20)**	▲38億円	±0億円
各セグメントに配賦されない全社損益	売上収益	–	–	**–**	–	–
	営業利益	▲236 (▲219)	▲250 (▲250)	**▲230** **(▲230)**	+6億円	+20億円
連結	売上収益	5,910	4,300	**4,500**	▲23.9%	+4.7%
	営業利益	67 (112)	▲750 (▲700)	**▲650** **(▲600)**	▲717億円	+100億円

注：営業利益の（ ）内数値は、構造改革関連費用を除いた値
各セグメントに配賦されない全社損益には前回予想と同様にリスクバッファ▲50億円が含まれる

2021年3月期 通期見通し：映像事業

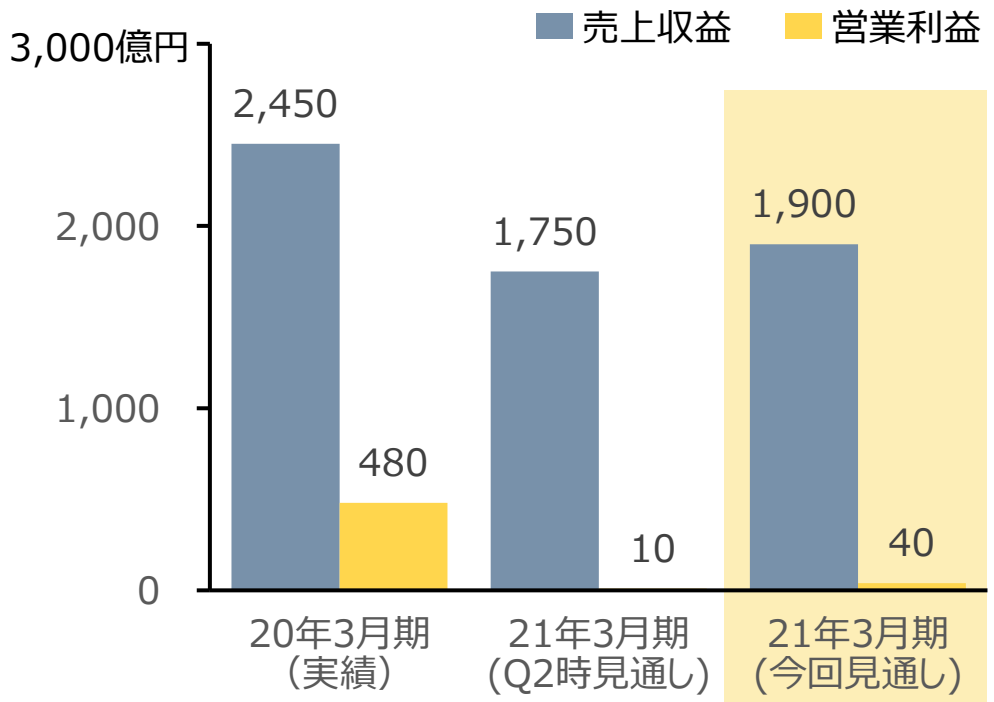


レンズ交換式デジタルカメラ（万台）			
市場規模	792	500	530
ニコン	162	85	85
交換レンズ（万本）			
市場規模	1,337	830	880
ニコン	265	140	140
コンパクトデジタルカメラ（万台）			
市場規模	619	290	350
ニコン	84	25	25

- **売上収益：前年比808億円減収（前回比50億円増収）**
  - 市場縮小に加え、コロナ影響により販売台数は大幅に減少
    Q3のミラーレス新製品等の好調を反映し、売上収益を50億円上方修正
  - ミラーレスカメラを6モデル、ミラーレスカメラ用レンズを18本まで拡充、プロ・趣味層向け製品シフトが進む

- **営業利益：前年比229億円減益（前回比50億円増益）**
  - 前回比、増収と事業運営費削減前倒しにより50億円上方修正
  - 今期の事業運営費は20億円の前倒しを含め220億円削減予定、中計期間中の総額630億円削減は順調に進展
  - 今期の構造改革関連費用約50億円は変更なし、
    Q2・Q3の固定資産減損、棚卸資産廃棄・評価損は約160億円、これらの一時費用を除けば、コロナ影響を含む今期営業利益は約▲190億円

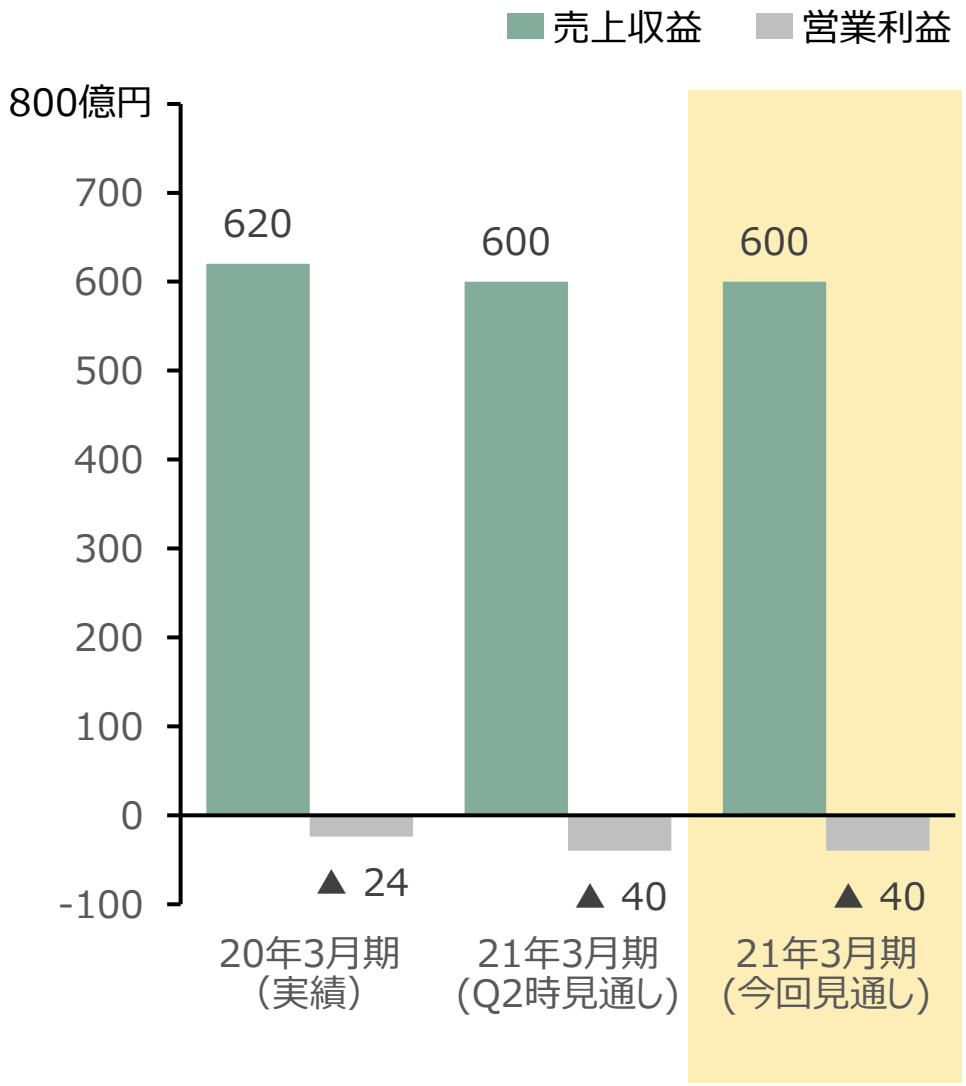
2021年3月期 通期見通し：精機事業



FPD露光装置販売台数（台）			
市場規模 (CY19/20)	90	55	52
ニコン	27	22	28
半導体露光装置販売台数（新品／中古、台）			
市場規模 (CY19/20)	280	290	305
ニコン	34/11	17/10	17/10

- **売上収益：前年比550億円減収（前回比150億円増収）**
  - FPD：中小型パネル用の設備投資は回復基調、大型パネル用の設備投資は堅調に推移
  - FPD：渡航制限により装置据付作業に制約がある状況は継続しているが、据付作業の前倒しは更に進み、販売台数は前回比6台増
  - 半導体：主要顧客の投資一巡に加え、一部顧客でコロナ影響による装置納入や受注遅延もあり、装置販売台数は大幅減
- **営業利益：前年比440億円減益（前回比30億円増益）**
  - FPD・半導体の減収影響に加え、Q2・Q3の棚卸資産廃棄・評価損約140億円、成長領域の研究開発投資増により、大幅減益
  - 前回比、Q3で棚卸資産の廃棄・評価損を計上したが、FPDの増収増益効果により30億円上方修正

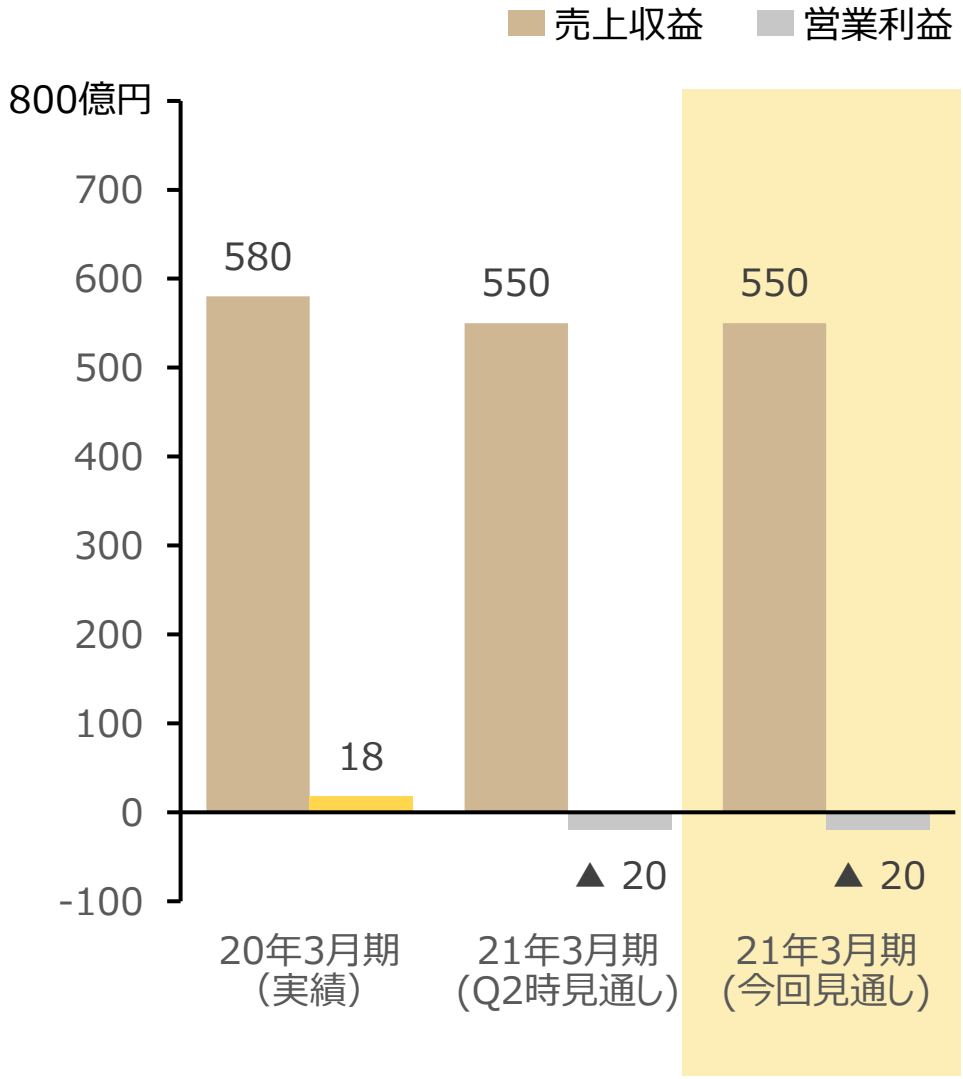
2021年3月期 通期見通し：ヘルスケア事業



- **売上収益：前年比20億円減収**
  - 生物顕微鏡・網膜画像診断機器ともに受注活動再開により、下期は回復基調だが、上期の減収影響が大きい
  - 細胞受託生産は複数のプロジェクトが順調に進展
    来期中に生産を本格化させ、業績貢献を開始する予定

- **営業利益：前年比16億円減益**
  - コロナ影響により、通期黒字化は一年遅れ、来期達成の計画

2021年3月期 通期見通し：産業機器・その他



- **売上収益：前年比30億円減収**
  - 産業機器事業は電子部品・半導体関連、自動車関連の設備投資は回復基調だが前年比では減収
  - その他事業では、 DMG森精機との業務提携やVelodyne社とのlidarセンサー協業、コンポーネントビジネスなどでデジタルソリューションズ事業の売上は拡大

- **営業利益：前年比38億円減益**
  - Q2に主に国内生産拠点で映像事業関連の固定資産減損32億円を計上しており、この一時費用を除けば今期は実質黒字

経営ロードマップ

前回決算報告資料再掲

持続的成長回帰

成長基盤構築	新たな価値創造に資本・リソースを集中
精機事業安定	ビジネスの裾野を拡げて、収益構造を強靭に
映像事業再建	趣味・プロ層重視、構造改革で市場縮小に対応
コロナ・危機対応	事業の現地化、デジタル化の推進、コスト改革で適応
バランスシート改善	固定資産・棚卸資産等の評価を徹底、低採算資産を整理
財務健全性	成長投資と既存事業再建に適切に対処するべく、流動性は堅持
経営基盤	ステークホルダー・技術・ブランドを中心に据えて、ガバナンス強化を継続

経営基盤と財務健全性をベースに経営課題を着実に改善し、持続的成長を実現する

参考資料

2021年3月期 通期見通し：連結売上収益・損益

単位：億円	18年3月期	19年3月期	20年3月期			21年3月期見通し		
	通期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
売上収益	7,170	7,086	2,910	3,000	5,910	**1,756**	**2,744**	**4,500**
営業利益	562	826	175	▲108	67	**▲466**	**▲184**	**▲650**
営業利益率	7.8%	11.7%	6.0%	▲3.6%	1.1%	**▲26.5%**	**▲6.7%**	**▲14.4%**
税引前利益	562	879	201	▲83	118	**▲388**	**▲212**	**▲600**
税引前利益率	7.8%	12.4%	6.9%	▲2.8%	2.0%	**▲22.1%**	**▲7.7%**	**▲13.3%**
当期利益（親会社の所有者に帰属）	347	665	163	▲87	76	**▲315**	**▲105**	**▲420**
当期利益率	4.8%	9.4%	5.6%	▲2.9%	1.3%	**▲17.9%**	**▲3.8%**	**▲9.3%**
EPS	87.76円	167.86円	19.93円			**▲114.40円**		
年間配当	36円	60円	40円			**20円**		
ROE	6.3%	11.2%	1.3%			**▲8.5%**		
FCF	902	435	▲48			**▲121**	**未定**	**未定**
為替：USドル	111円	111円	109円	109円	109円	**107円**	**105円**	**106円**
ユーロ	130円	128円	121円	120円	121円	**121円**	**120円**	**121円**

注： 19年3月期からは、従来販売管理費として計上していた販売促進費の一部を売上収益から控除。19年3月期の売上収益は83億円の控除後の金額

2021年3月期 通期見通し：セグメント別業績

単位：億円

		18年3月期	19年3月期	20年3月期			21年3月期見通し		
		通期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
映像事業	売上収益	3,607	2,961	1,190	1,068	2,258	**644**	**806**	**1,450**
	営業利益	302 (360)	220 (226)	20 (22)	▲191 (▲166)	▲171 (▲144)	**▲274** **(▲261)**	**▲126** **(▲89)**	**▲400** **(▲350)**
精機事業	売上収益	2,263	2,745	1,176	1,274	2,450	**638**	**1,262**	**1,900**
	営業利益	533 (533)	817 (817)	260 (260)	220 (220)	480 (480)	**▲60** **(▲60)**	**100** **(100)**	**40** **(40)**
ヘルスケア事業	売上収益	568	654	300	320	620	**257**	**343**	**600**
	営業利益	▲32 (▲32)	▲19 (▲19)	▲12 (▲12)	▲12 (▲12)	▲24 (▲24)	**▲23** **(▲23)**	**▲17** **(▲17)**	**▲40** **(▲40)**
産業機器・その他	売上収益	732	725	242	338	580	**217**	**333**	**550**
	営業利益	50 (78)	69 (75)	18 (18)	0 (0)	18 (18)	**▲29** **(▲29)**	**9** **(9)**	**▲20** **(▲20)**
各セグメントに配賦されない全社損益	売上収益	–	–	–	–	–	**–**	**–**	**–**
	営業利益	▲291 (▲291)	▲261 (▲256)	▲111 (▲94)	▲125 (▲125)	▲236 (▲219)	**▲78** **(▲78)**	**▲152** **(▲152)**	**▲230** **(▲230)**
連結	売上収益	7,170	7,086	2,910	3,000	5,910	**1,756**	**2,744**	**4,500**
	営業利益	562 (649)	826 (844)	175 (194)	▲108 (▲82)	67 (112)	**▲466** **(▲453)**	**▲184** **(▲147)**	**▲650** **(▲600)**

注：19年3月期からは、従来販売管理費として計上していた販売促進費の一部を売上収益から控除。19年3月期の売上収益は83億円の控除後の金額
営業利益の（ ）内数値は、構造改革関連費用を除いた値
産業機器・その他に属する半導体関連製品事業を精機事業に移管。2020年3月期への遡及適用の結果、産業機器・その他から精機事業へ売上収益53億円、営業利益13億円を組替

2021年3月期 Q3：セグメント別業績

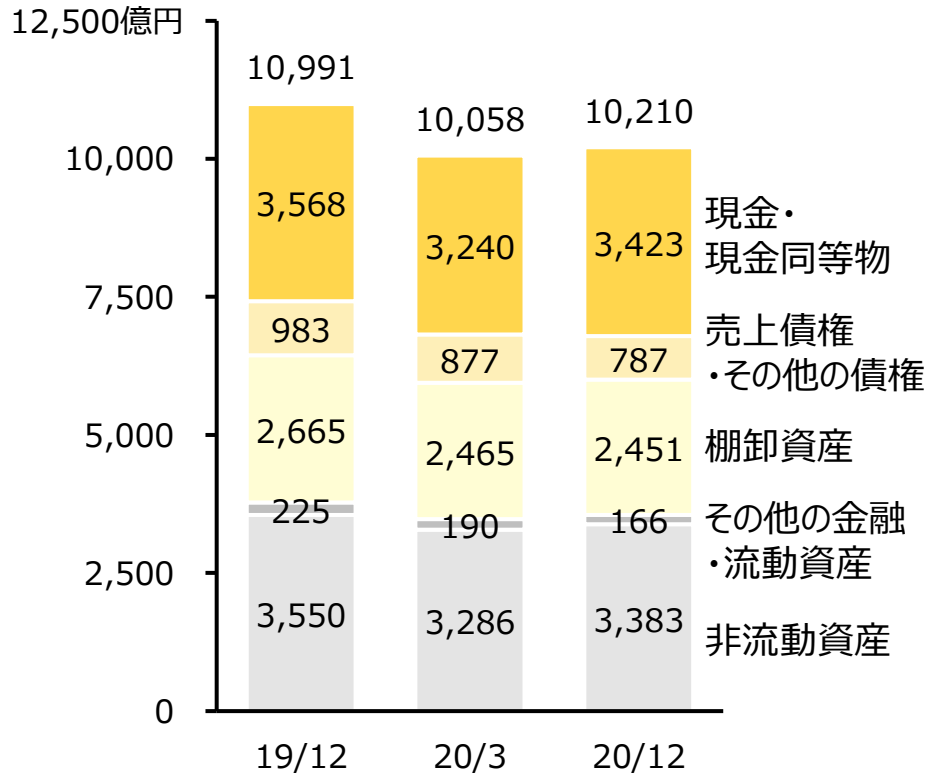
単位：億円

		20年3月期				21年3月期		
		Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3
映像事業	売上収益	673	517	700	368	**251**	**393**	**523**
	営業利益	35 (35)	▲15 (▲13)	▲8 (▲2)	▲183 (▲164)	**▲81** **(▲78)**	**▲193** **(▲183)**	**▲6** **(0)**
精機事業	売上収益	518	658	526	748	**196**	**442**	**666**
	営業利益	103 (103)	157 (157)	107 (107)	113 (113)	**▲51** **(▲51)**	**▲9** **(▲9)**	**121** **(121)**
ヘルスケア事業	売上収益	129	171	165	155	**103**	**154**	**171**
	営業利益	▲19 (▲19)	7 (7)	▲4 (▲4)	▲8 (▲8)	**▲24** **(▲24)**	**1** **(1)**	**7** **(7)**
産業機器・その他	売上収益	108	134	143	195	**95**	**122**	**145**
	営業利益	2 (2)	16 (16)	9 (9)	▲9 (▲9)	**▲4** **(▲4)**	**▲25** **(▲25)**	**14** **(14)**
各セグメントに配賦されない全社損益	売上収益	–	–	–	–	**–**	**–**	**–**
	営業利益	▲29 (▲29)	▲82 (▲65)	▲63 (▲63)	▲62 (▲62)	**▲44** **(▲44)**	**▲34** **(▲34)**	**▲38** **(▲38)**
連結	売上収益	1,429	1,481	1,534	1,466	**647**	**1,109**	**1,506**
	営業利益	93 (93)	82 (101)	40 (47)	▲148 (▲129)	**▲205** **(▲202)**	**▲261** **(▲251)**	**99** **(105)**

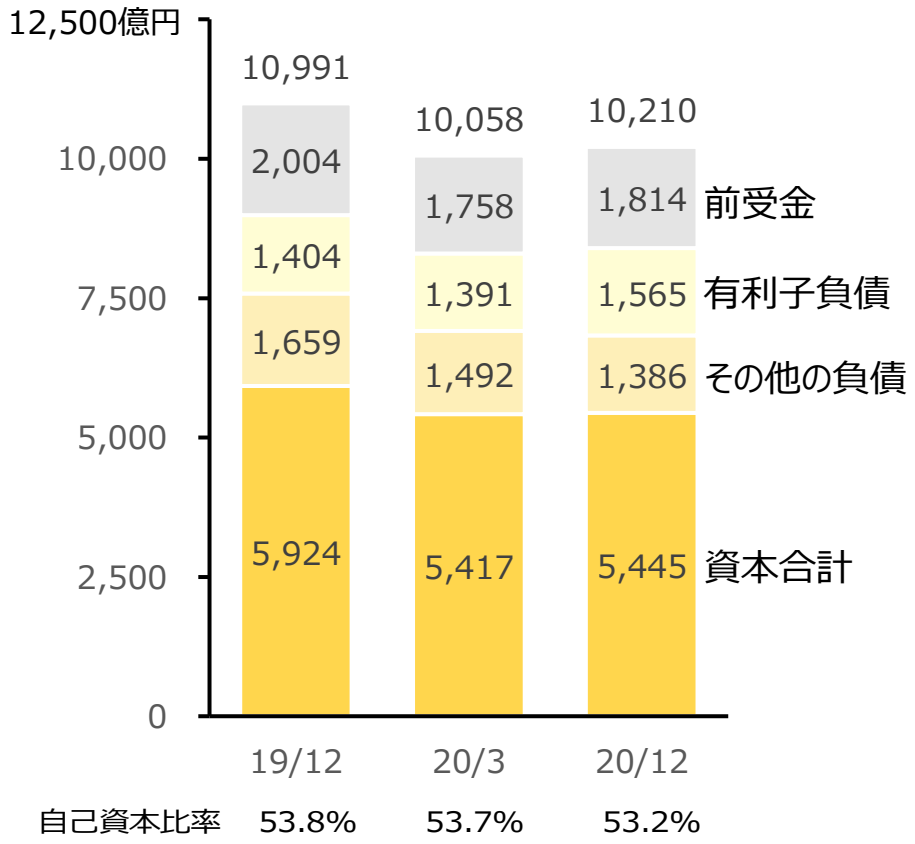
注:営業利益の（ ）内数値は、構造改革関連費用を除いた値

2021年3月期 Q3：財政状態計算書

資産



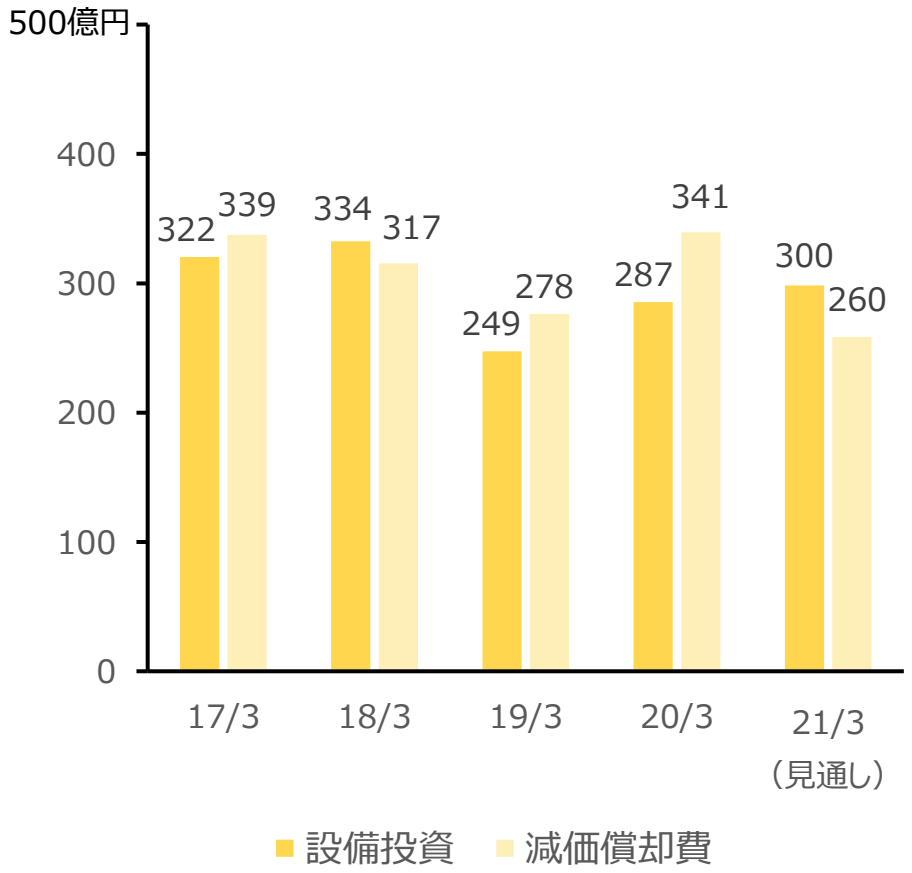
負債・資本



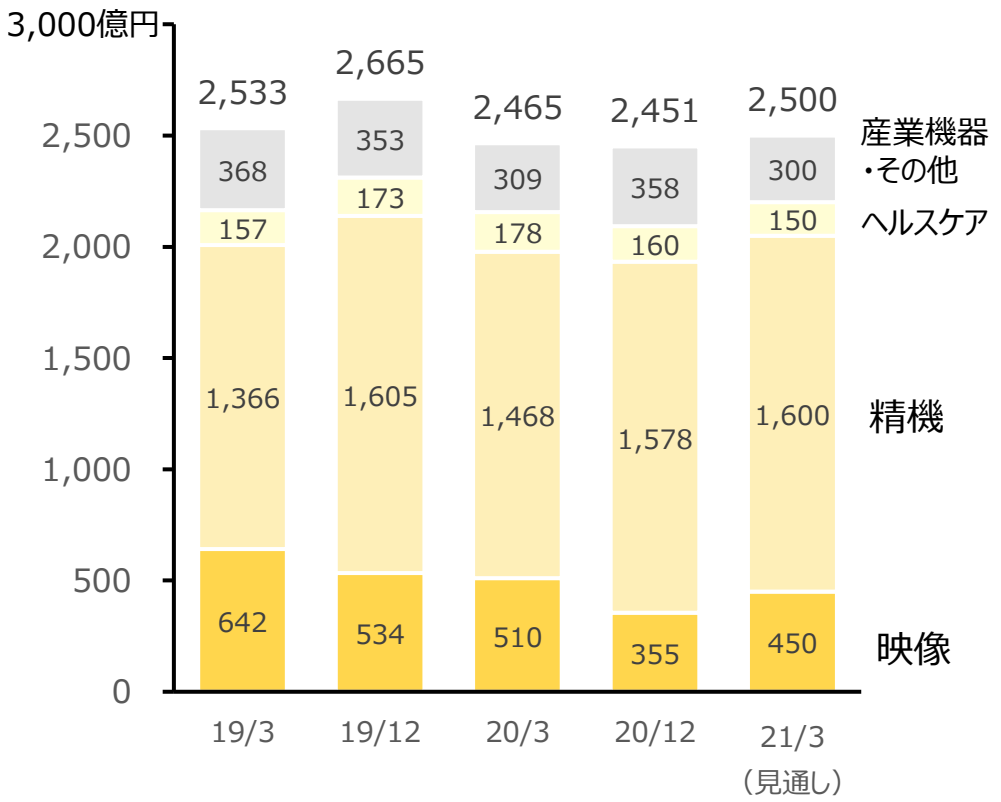
注： 自己資本比率＝親会社所有者帰属持分比率。現金・現金同等物には3ヶ月超の定期預金残高を含めず表示

2021年3月期 通期見通し：設備投資・減価償却費・棚卸資産

設備投資・減価償却費



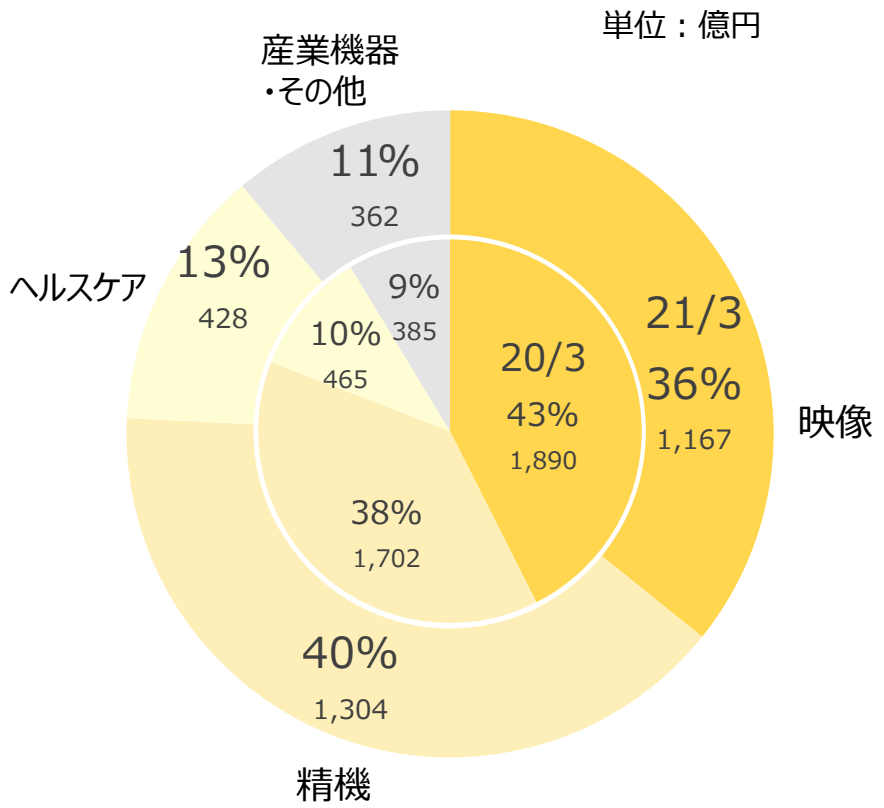
棚卸資産



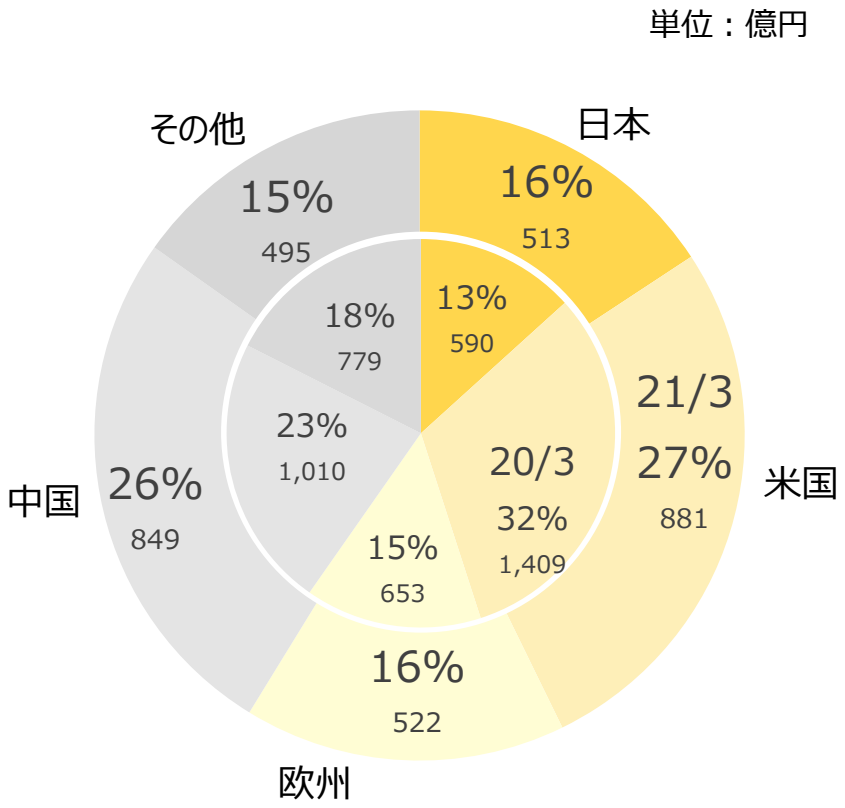
注：「設備投資」　2020年3月期にはIFRS第16号適用によりリース資産約40億円を含めて表示
「減価償却費」2018年3月期以降には仕掛開発費の償却も含めて表示、2020年3月期には設備投資と同様にリース資産約70億円を含めて表示
「棚卸資産」　産業機器・その他に属していた半導体関連製品事業を精機事業に移管し、2020年3月期への遡及適用した結果、2019年12月末で31億円、2020年3月末で26億円の残高を組替

2021年3月期 Q1-Q3：売上収益内訳

セグメント別内訳



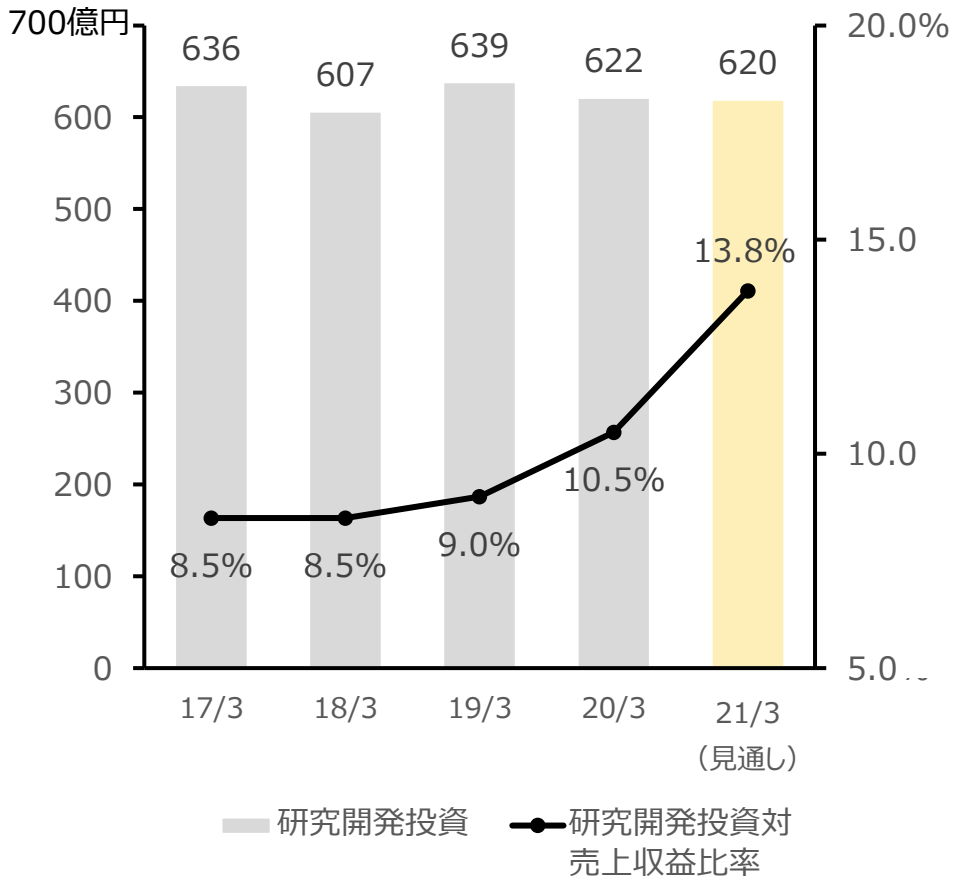
地域別内訳



注：外円は「2021年3月期Q3累計売上収益3,262億円」の内訳、内円は「2020年3月期Q3累計売上収益4,444億円」の内訳を表示

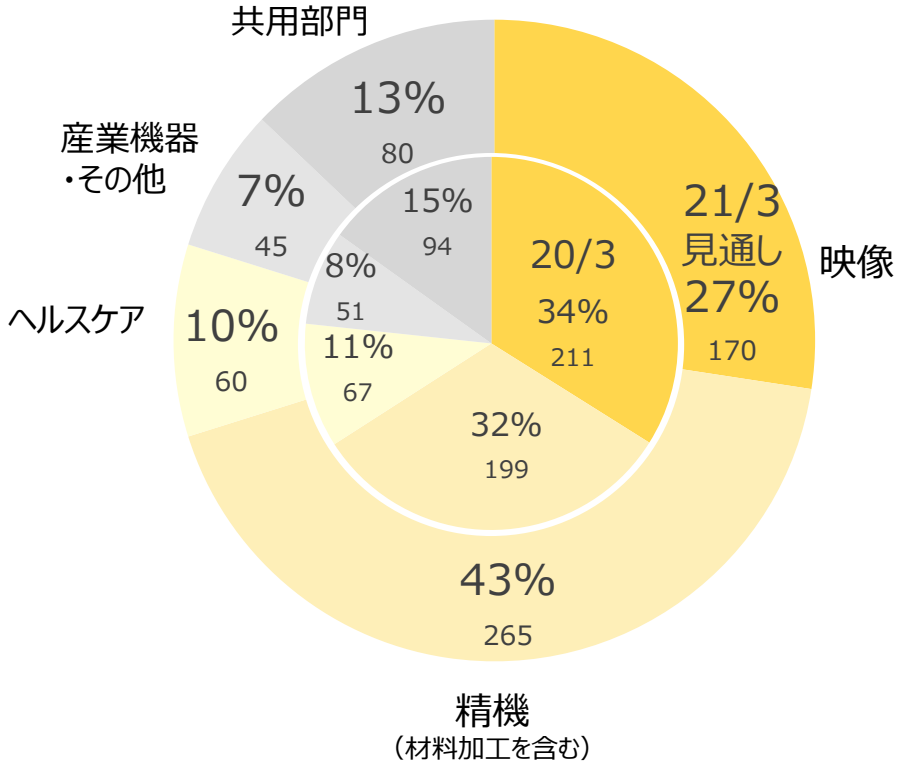
2021年3月期 通期見通し：研究開発投資

研究開発投資



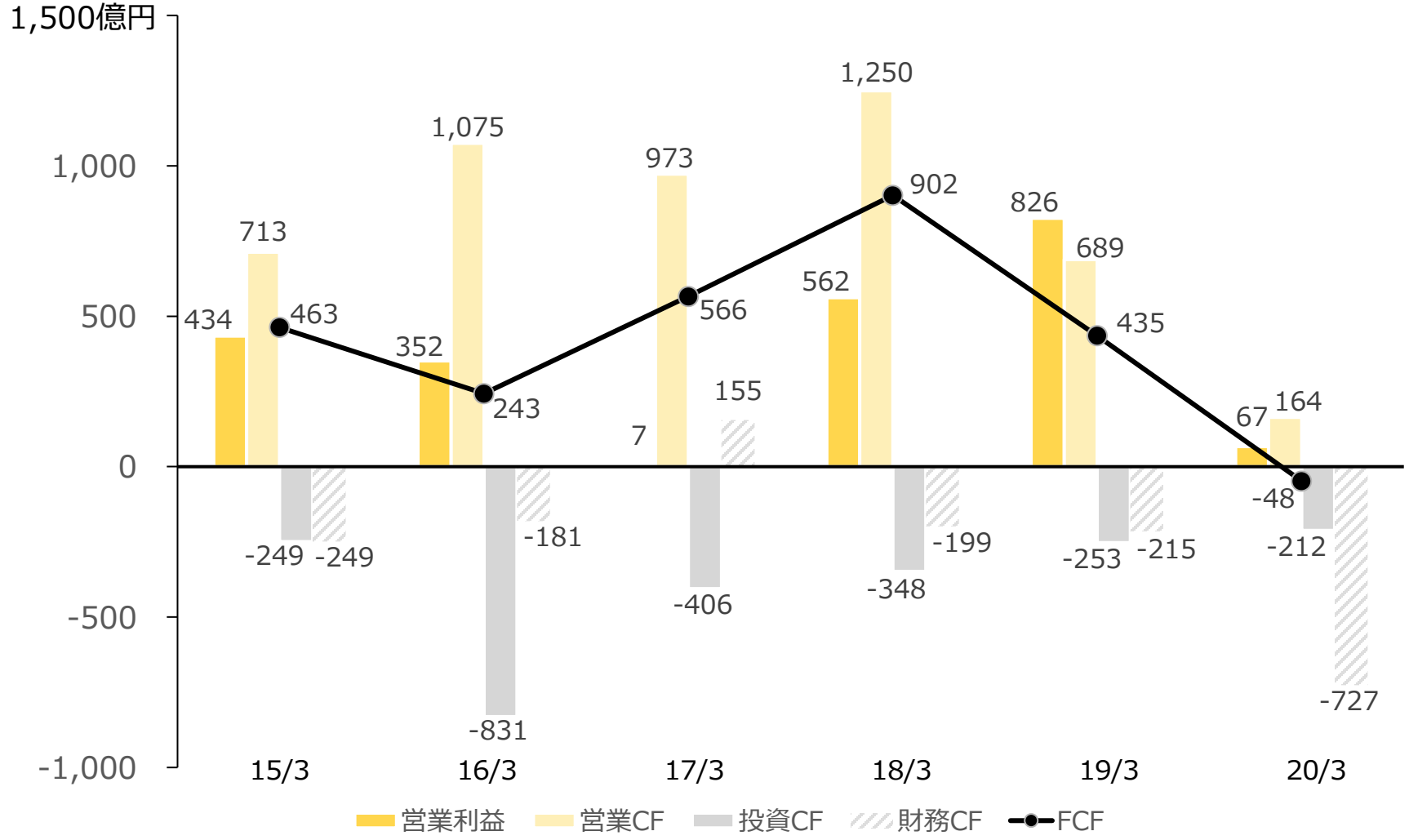
研究開発投資内訳

単位：億円



注：「研究開発投資」には、2018年3月期以降に行っている開発投資の一部資産化も含めて表示

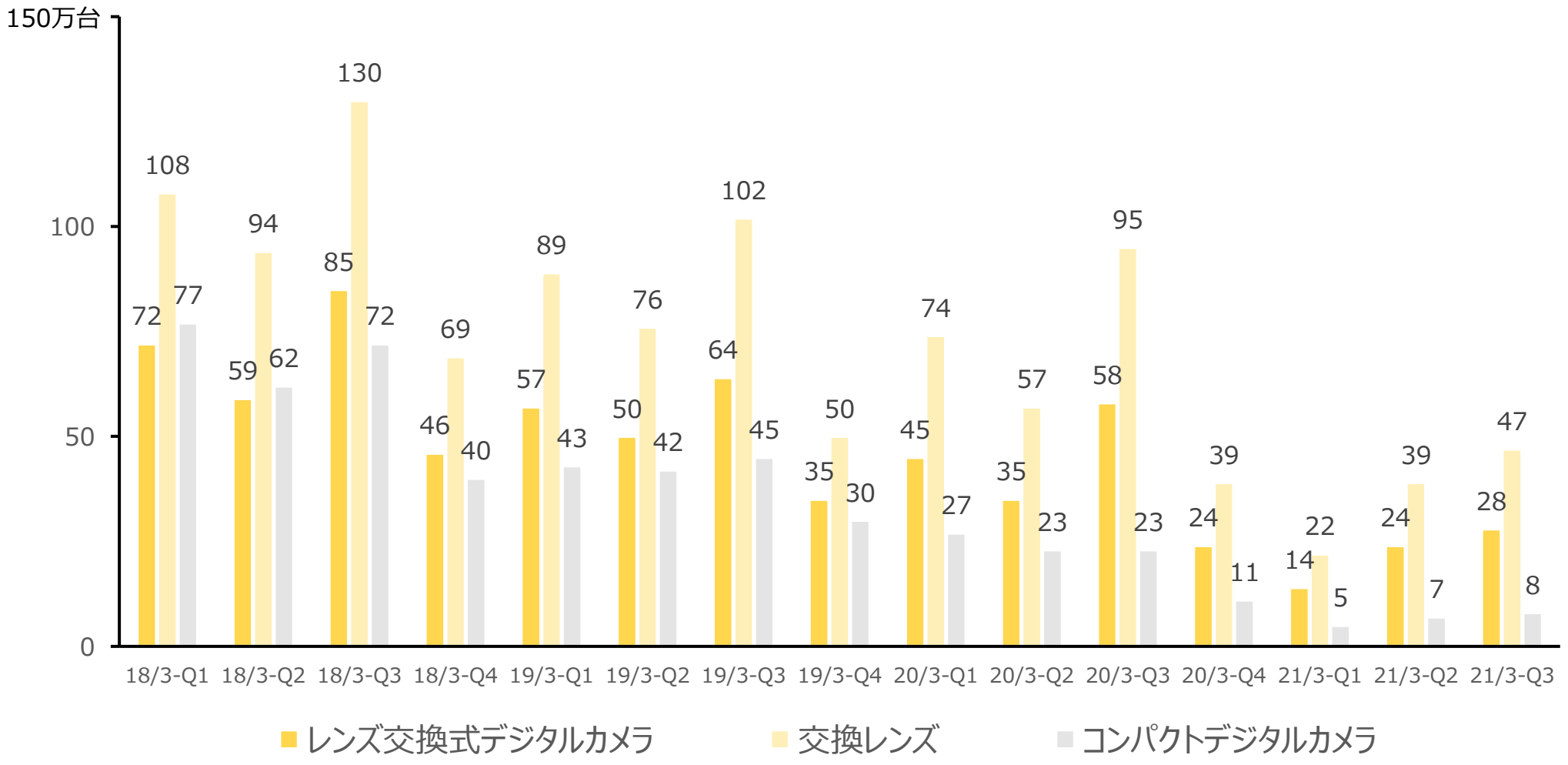
キャッシュフロー推移



注: FCF（フリーキャッシュフロー）＝ 営業CF ＋ 投資CF、2015年3月期以前は日本基準、2016年3月期以降は国際会計基準（IFRS）で表示
FCF ＋ 財務CF ＋ 現金・現金同等物に係る換算差額 ＝ 現金・現預金同等物期末残高増減

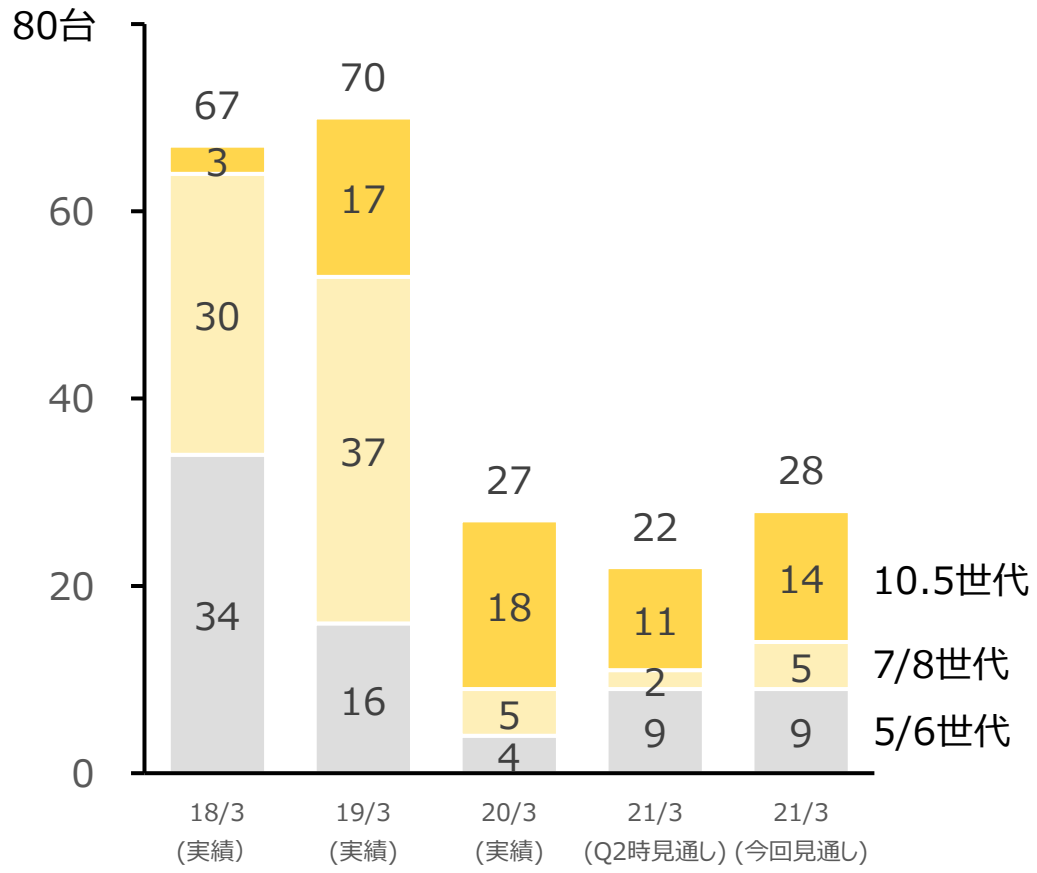
映像事業 販売台数

製品カテゴリー別内訳

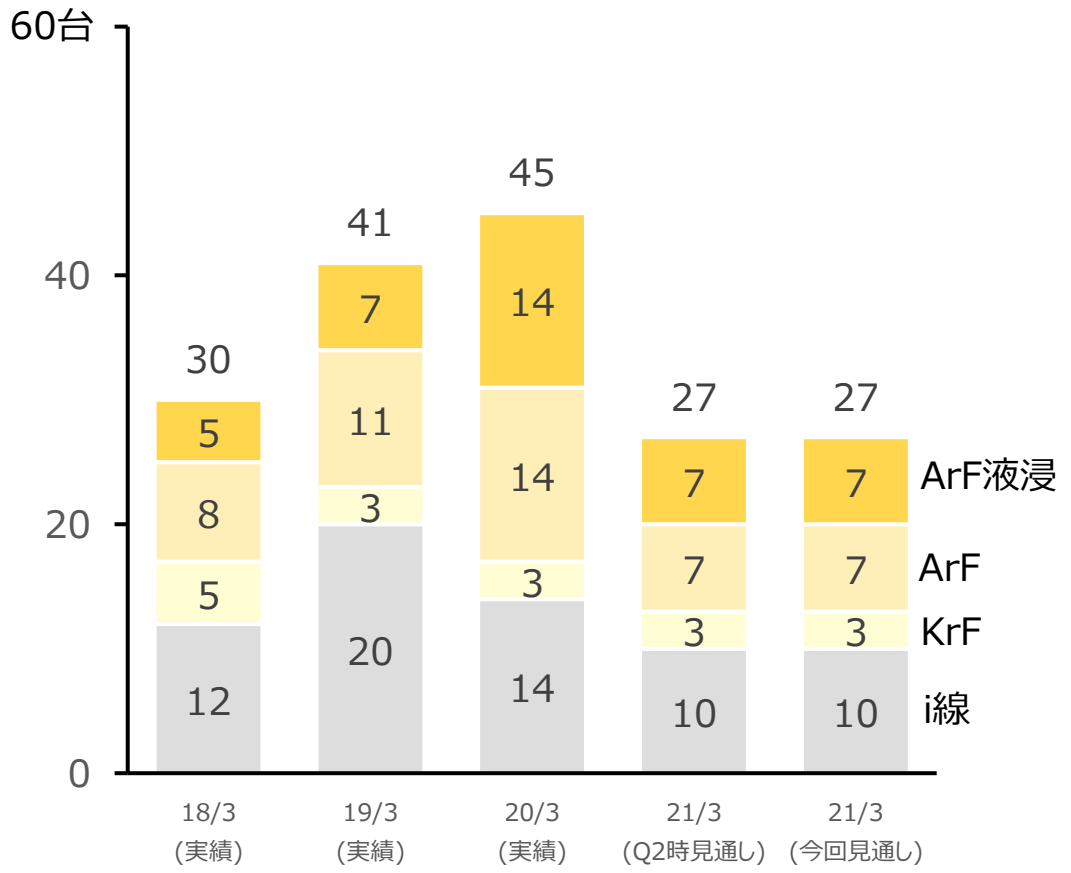


2021年3月期 通期見通し：精機事業 販売台数

FPD露光装置世代別内訳

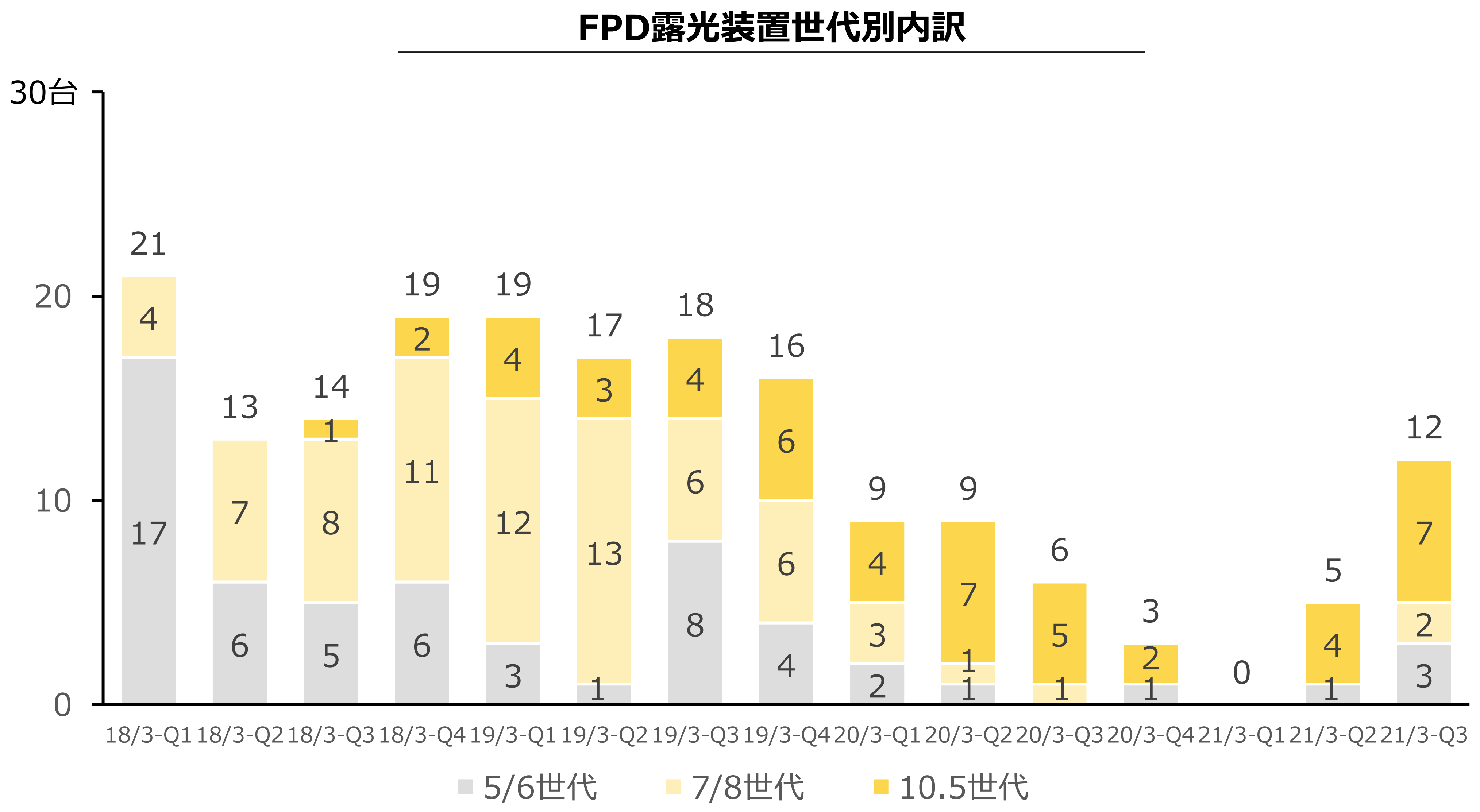


半導体露光装置光源別内訳（中古含む）



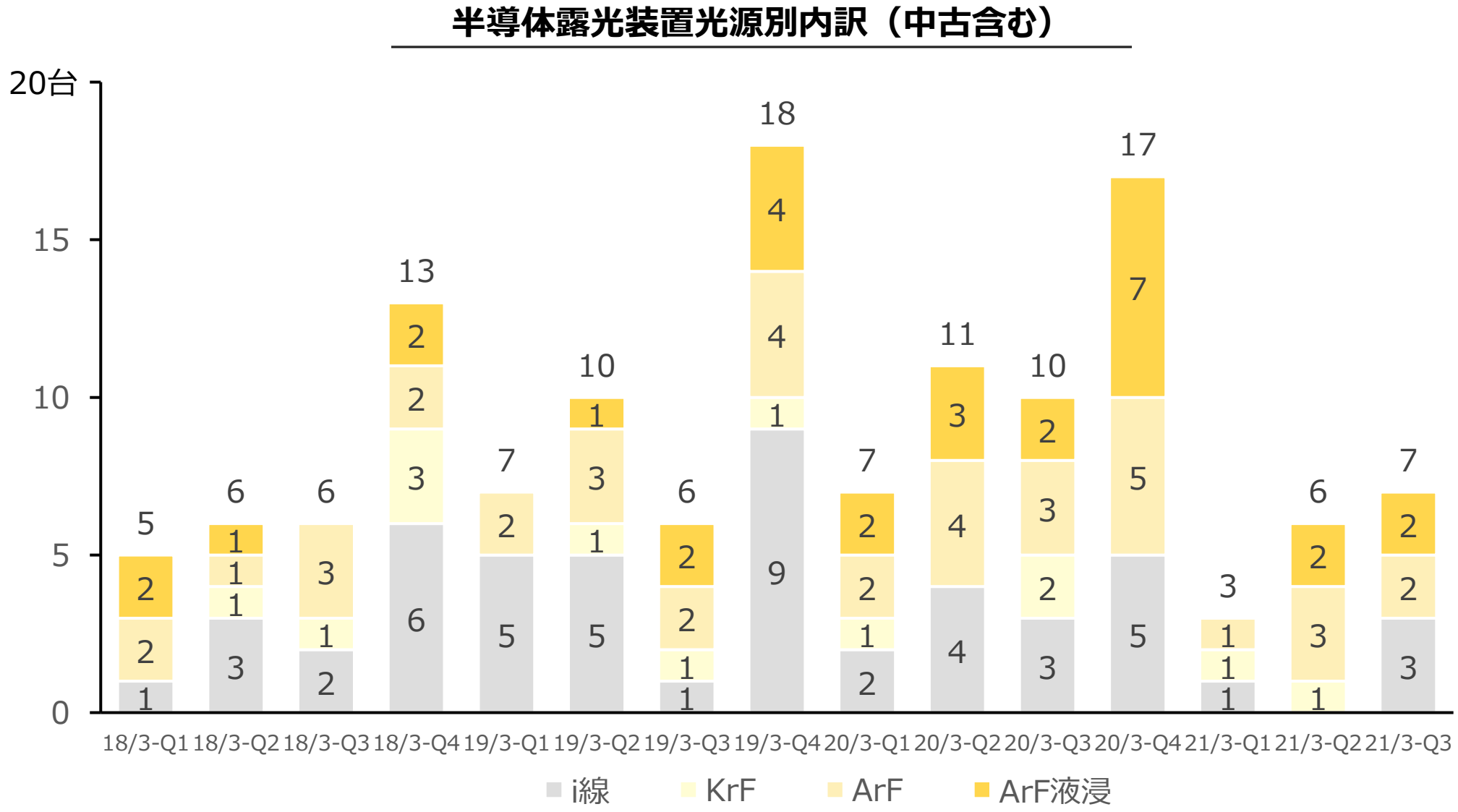
注：半導体露光装置の新品の台数は、2018年3月期は17台、2019年3月期は21台、2020年3月期は34台、2021年3月期は17台（予定）

精機事業 販売台数



FPD露光装置世代別内訳
30台
20
10
0
21
4
17
13
7
6
14
1
8
5
19
2
11
6
19
4
12
3
17
3
13
1
18
4
6
8
16
6
6
4
9
4
3
2
9
7
1
1
6
5
1
3
2
1
0
5
4
1
12
7
2
3
18/3-Q1
18/3-Q2
18/3-Q3
18/3-Q4
19/3-Q1
19/3-Q2
19/3-Q3
19/3-Q4
20/3-Q1
20/3-Q2
20/3-Q3
20/3-Q4
21/3-Q1
21/3-Q2
21/3-Q3
5/6世代
7/8世代
10.5世代

精機事業 販売台数


半導体露光装置光源別内訳（中古含む）
20台
15
10
5
0
18/3-Q1 18/3-Q2 18/3-Q3 18/3-Q4 19/3-Q1 19/3-Q2 19/3-Q3 19/3-Q4 20/3-Q1 20/3-Q2 20/3-Q3 20/3-Q4 21/3-Q1 21/3-Q2 21/3-Q3
5 6 6 13 7 10 6 18 7 11 10 17 3 6 7
i線 KrF ArF ArF液浸

2021年3月期 通期見通し：為替の影響

	為替レート	1円の変動による影響額	
	21年3月期 Q4前提	売上収益 Q4	営業利益 Q4
USドル	105円	約6億円	約1億円
ユーロ	115円	約2億円	約1億円

注： 上記は新興国通貨がUSドル、ユーロに連動することを想定

将来予想に関する記述

- 本資料で記述されている業績予想並びに将来予測は、現在における入手可能な情報に基づき当社が判断した内容であり、潜在的リスクおよび不確実性が含まれます。このため、今後様々な要因の変化によって、実際の業績は記述されている内容と大きく異なる場合があることをご承知おきください

Nikon